

電子工学科卒業研究発表会の予稿の書き方

電子 太郎

指導教官 高専 太郎

1 はじめに

ここでは、卒業論文の書き方について述べる。まず、論文の目次を考え、論文の概要を決定する。次に、論文に掲載する図面を作成する。続いて、理論・原理など不変的な事象から文章を書き始め、実験結果・計算結果、考察、まとめの順序で記述を進める。そして、最後にはじめにを書いて論文を完成させる。また、謝辞、参考文献、付録なども必要に応じて記述する。論文に掲載する図面や文面は、著作権等を考慮しなければならない。そのため、参考文献の図をコピーしたり、まったく同じ文面を論文に掲載してはならない。論文はオリジナルでなければならない。

1.1 文中の英語について

文中には、単位や変数などで英語を用いる場合がある。このとき単位、数学記号にはローマン体、変数には斜体を用いるのが通例である。これは、数式中でも同様である。

例 1) $[A], [cm]$

例 2) $J [A], E [eV]$

例 3)

$$f(x) = \log x [A] \quad (1)$$

1.2 図表の書き方

図の下側には、タイトルを付け、できる限り条件などの説明を加える。文面を読まなくとも、図面だけ見て、読者に何について書かれた図面なのかわかるようにする。また、図中の文字は小さすぎたり大きすぎたりしないように留意すること [1]。

次に、表は上側にタイトルおよび説明を加える。表では、できる限り縦罫は用いないようにする。また、表罫は太線とし、横罫もできるだけ少なくする。

例)

表 1 表の例		
	回答 1	回答 2
問 1	1	3
問 2	5	4
問 3	3	3

1.3 参考文献について

参考文献は以下のように記述すること。

論文の場合

著者：“タイトル”，雑誌名，巻，号，ページ数（年号）

本の場合

著者：“タイトル”，出版社，ページ数（年号）。

参考文献

[1] Taro Denshi：“How to write”，Jpn. J. KCCT, 6, pp.100-200 (2001).

[2] 高専 太郎：“論文記述法”，神戸出版, pp.51-200 (2001).